2022年度 施策マネジメントシート【2021年度実績評価】　　作成: 2022 年　6　月　10　日

施策番号	施　策　名	国際・地域間交流の推進	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり		
5-1-3			政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり		
	主　管　課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内　線	231
	施策関係課	農林課・生涯学習課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図	結果
友好都市との交流による人材育成と交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。	町民・交流都市の住民	・友好都市との交流に参加し、異なる文化に触れ、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる	交流を通じたさまざまな視点と情報の連携によるまちづくりをすすめる

成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度目標	
① 他都市(トレーシー市・広尾町・揖斐川町)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	住民意識調査	%	71.5% 48.2% 50.7%	75.5% 48.0% 60.7%	68.8% 44.9% 58.1%	68.5% 41.5% 58.3%	75.0% 50.0% 50.0%	
②								
③								
④								

成果指標設定の考え方	①トレーシーについては町民の3/4、広尾・揖斐川については町民の1/2に知ってもらうことを目指す。

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算
施策事業費（千円）	9,990	13,358	9,318	9,205
人工数(業務量)	0.4363	0.5577	0.1920	0.8005

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察

①2021年度の成果評価（前年度との比較）	☐ 成果は向上した ☑ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	コロナ禍において人的交流事業全般が停滞しているものの、モノやコトの新たな交流を実践したことらかほぼ現状維できている。
②2022年度の目標達成見込み	☐ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☑ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠（理由）	コロナ禍において、人的交流事業全般の先が見えないことから、このまま停滞することも考えられるが、国内の友好都市交流に関しては、既存の人の交流も含め新たなヒト・モノ・コトの交流を進め、成果を高める新たな方策を想定していることから目標を達成できると考える。

(2)施策の成果評価に対する2021年度事務事業の総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	うみとやまのふれあい交流推進事業 揖斐川町交流推進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	国内の地域間交流に関しては、コロナ禍でもできる新たな交流事業を実施することができた。特に揖斐川町に関しては小学生の相互交流を基軸にした事業交流を前提としていたことから、事業の休止により停滞をまぬがれなかったが、現在行っている職員の人事交流を活かし両町の新たな交流事業を模索した結果、新たなヒトとモノの交流を実施しPRすることができた。広尾町に関しては交流35周年目の節目ということで、記念事業として、両町の食材を活用した学校給食同一メニューの提供を実施し、小中学生に向けた両町交流のPRをすることができた。トレーシー市との交流については、同市からの受け入れ事業をメインとする芽室町トレーシー市交流協会の事業が交流事業の中止により滞ったが、新たな活動として町民活動支援センターが実施する活動紹介の場への参加によるPRができた。また同市から派遣されている英語指導助手と会員の交流により、会のモチベーション維持、新たな事業模索につなげることができた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果（計画策定時との比較）							
担当課評価	コロナ禍においても、中止となった既存事業以外に、積極的に新たな事業実施、展開することで、前進していると判断する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A：実現した　B：（前期実施計画策定時と比較して）大きく前進した　C：（前期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（前期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した　E：（前期実施計画策定時と比較して）後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	≪施策を取り巻く状況≫ コロナ禍におけるかつての団体での交流の実施は今後も流動的ではある。実質的な人の交流が進まないことにより成果指標である認知度は低下する恐れがある。特に揖斐川町、トレーシー市の交流が学校を通じての事業実施によるが、3年近く実施されていない現状から、学校現場での認知も低下している恐れもある。 ≪今後の予測≫ 地域間交流の成果は認知度にはなっているが、総合計画に記載のとおり、双方の人的交流から、双方の経済交流につなげるなど、その先の成果も求め、新たな事業展開を模索していく必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	成果指標は認知度でいいのか。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み（今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み）

・揖斐川町交流は、昨年実施した事業の継続・発展、民間での実施を継続支援するとともに、小学生交流事業の実施を予定し、コロナ禍において新たなスタイルでの実施が求められることから、新たなチャンスと位置付け、関係課(魅力創造課、生涯学習課)が連動するとともに、人事交流職員、事業実施に協力いただく岐阜県人会、民間の関係者と多くの関係者とともに、さらに充実した、意味のある事業にしていく。
・広尾町交流は、昨年事業により築いた両町職員、民間の関係者とのコネクションを活用し、ヒトモノコトの新たな交流を模索し、実施する。
・国内地域間交流（揖斐川町、広尾町以外も含め）は、地域間交流のコネクションを活用した、関係人口・交流人口づくりの創出、経済効果として販売・アンテナショップ、ふるさと納税事業、旅行訪問など、双方のメリットにつなげる取り組みを積極的に進める。同時に庁内関係部署の連携による事業実施を進める。
・トレーシー市交流は、芽室町の交流協会の活動を継続支援し、新たな交流を模索し、実施する。

6. 経営戦略会議（庁内評価）

			A	B	C	D	E
評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	施策の方針の意図や結果にどう結び付けていくのかを考えて取組を進めてください。						

A：実現した
B：（前期実施計画策定時と比較して）大きく前進した
C：（前期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（前期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した
E：（前期実施計画策定時と比較して）後退した

7. 総合計画審議会（外部評価）

			A	B	C	D	E
評価	コロナ禍で人的交流が限られている中で、できるツールを使って取組みを進めてきたため、前進したと評価する。	進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・関係各所を通じて施策の成果についてPRを効果的に行ってほしい ・ネット等を活用し、幅広く町民に対し、周知徹底してほしい ・給食交流は、広尾だけでなく他の姉妹都市の実施を検討してほしい ・給食交流は四季によって回数を増やすのはどうか ・姉妹都市を他の地区に広げてみるのはどうか						

A：実現した
B：（前期実施計画策定時と比較して）大きく前進した
C：（前期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（前期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した
E：（前期実施計画策定時と比較して）後退した